

項目/Items	内容/Contents					
開講年度 Year	2024年度/AY2024					
講義コード Subject Code	-					
科目ナンバー Course Number	【2023 カリキュラム / 2023 Curriculum】 [23]-[S]-[COM]-3 【2017 カリキュラム / 2017 Curriculum】 [17]-[S]-[COM]-3					
学位授与方針との関連性 Relevancy to the Diploma Policy (CAM table posted)	シラバス欄外に掲載しているCAM表を確認してください。 See Curriculum Alignment Matrices below.					
開講セメスター Semester	春セメスター/Spring semester					
講義名・クラス名 Subject / Class	プロジェクト研究 / Field Research Project					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能セメスター Course availability by college/curriculum, subject field, course title, and eligible semester for application	2024SP		履修可否	科目分野	科目名	申請可能セメスター
	学部	カリキュラム				
	APS	2017	○	APS専門教育科目	プロジェクト研究	5~7
		2023	○	APS専門教育科目	プロジェクト研究	5~7
	APM	2017	○	他学部科目	プロジェクト研究	5~7
		2023	×	-	-	-
ST	2023	×	-	-	-	
プログラム名 Program Name	プロジェクト研究「現代社会論ー(共生)について考える」					
担当教員 Instructor	清家 久美					
実習地 Program (practicum) Venue	新潟県上越市					
単位数 The number of credits	4単位/4 credits					
備考 Misc. Notes	開講言語/Program language			日本語/Japanese		
	その他/ Other on languages			-		
講義分野 Subject Field	-					
履修の目安 Recommended Qualifications / Knowledge	社会学系、文化人類学系の科目を取っておくことにより、理解や考察の深化が期待される。					
授業概要 Course Overview	<p>1.現代社会論、社会構想論という理論社会学の視点から、共生のあり方、コミュニティのあり方を考察し、現代社会、グローバル社会の把握する。 現代とはいかなる時代なのか、今後の社会はどのような社会になることがいいのかなど、理論社会学の視点から、共生のあり方、あるいはコミュニティのあり方を考えていく。社会学の基本問題としての集団と個の問題も同時に考えていくことになる。また、地域での現場のあり方を見ることで、現代社会やグローバル社会の問題、都市の問題等を見出ししていく。さらに未来社会を含め今後の社会についての社会構想を提案する。</p> <p>2.「地域」の持続可能な循環性・自律性を模索するNPOの研究 (1)「地域」の実態を知り、地域をどのように考えていけばよいのかを地方行政や、NPO、協同組合の実態調査をする中で様々な問題を考えていく。同時に、NPOの社会における機能を考察する。またそうしたNPOを生み出す社会的背景、時代的背景を考察する。 (2)「NPO法人かみえちご山里ファンクラブ」などの「地域」の持続可能な循環性、自律性を模索する、数千万のプロジェクトを抱えるNPOの実態調査をおこない、社会的機能・位置づけを考察する (3)NPOを生み出している社会的背景、さらに時代的背景、背景となる思想などを考えていく。 (4)NPOのリーダーの社会に対する構想力を身近に学ぶことは、学生の実践的思考を鍛え、日本社会・国際社会を具体的に、自律的に考えることができる能力を養うことが期待される。</p> <p>3.共生論、コミュニティ論 共生に関する理論、コミュニティ論の理論的把握をする。</p>					
到達目標 Course Objectives	<p>社会学(現代社会論/社会構想論/運動論/NPO論)・文化人類学の分野 本プロジェクトは、社会科学・社会学的研究の理論的把握をした上で、現地での調査をおこないつつ研究を進めていくものである。最終的には、現場の視点から、社会科学ないしは社会学の作法に基づいた論文を執筆するが、その過程で、社会学、人類学の理論、方法論、論文の書き方などを含め、スキルを養うことになる。 さらに、ゼミにおいて継続的に考えていくため、それらは卒業論文への節合可能性もある。具体的には以下。 ①社会学理論を網羅し、自らのテーマに関する理論については内容を理解することができる。 ②現地を対象にテーマ設定、問題設定ができる ③研究の意義を説明できる ④文献調査、質的調査のまとめができる ⑤調査分析、考察ができる ⑥問題設定から最後の結論までの書くことができる ⑦社会学と文化人類学の方法論と調査法が理解と、テーマに合わせた方法論や調査法を使用できる。</p>					

<p>授業方法 Teaching Methods</p>	<p>[事前授業] ①現代社会論、社会構想論の視点から、共生のあり方について考える ②現地についての文献やデータを参考にしつつそれぞれのテーマ設定 ③社会学理論のいくつかの議論と、人類学の理論の方法論的援用可能性についての議論</p> <p>[講義&amp;実習] 授業目的: 1. 現代における共生のあり方について考える 2. 現代社会についてのテーマ設定した上で、調査研究発表をする 内容(先方都合で一部変更になる可能性あり): 1. 社会学理論の視点から農村地域、地方都市、都市部における共生のあり方に関する共同講義 2. 実習:上越市地方行政の実態(市長講演)、森林組合の実態、国田地域のRMOの取り組みの調査 3. ゼミ:テーマでのレポート執筆のためのゼミ 4. 論文/レポート作成のためのゼミと、最終成果物の全体発表 ※講義: 授業概要(プログラム概要)参照のこと</p> <p>[事後授業] それぞれのテーマでのレポート完成に向けてのゼミ</p>
<p>毎回の授業の概要 Overview of Each Class</p>	<p>【事前授業】※オンライン実施、Zoom MTG IDは後日連絡 ① 7/13(土)5限 1.オリエンテーション 2.現代社会論 ② 8/10(土)5限 3.&lt;共生&gt;について考える 4. 現地実習についての説明</p> <p>【事後授業】 9/2(月) レポート作成のための総括ゼミ(実習先にて、閉会式後実施)</p>
<p>実習スケジュール Practicum Schedule</p>	<p>8/27(火) 13:00 大池いこいの森ビジターセンター集合(新潟県上越市) 【第1講義:2時間13:00-15:00】オリエンテーション ① 杉事務所, ウッドワーク, NPO法人かみえちご山里ファンクラブの機能と活動概要の説明 ② プロ研でのテーマ設定のための議論 【第2講義:5時間15:00-20:00】 ① 生活世界と共生論の理解 ② コミュニティにおける生活世界理解 ③ 生活環境主義的視点による村落 ④ 質疑応答 ⑤ プロ研でのテーマ設定とその発表会</p> <p>8/28(水) 【第3講義:4時間 8:00-12:00】 ① 共生の新たなモデルについて ② 上越市の地方行政の実態概要 【フィールド実習①:4時間13:00-17:00】 いこいの森ビジターセンターの周辺清掃と地域住民との交流</p> <p>8/29(木) 【第4講義:3時間 8:00-11:00】 ① 現代社会と地方行政 ② 質疑応答 【フィールド実習②:3時間12:00-15:00】 ① 上越市自治に関する管理職者の講演 ② 質疑応答 【ゼミ:2時間 16:00-18:00】 今まで受けてきたの発表と議論</p> <p>8/30(金) 【第5講義:4時間 9:00-13:00】 ① 地域再生と森林組合についての理論と実践:森林組合長による講演を含む ② 周辺の森林の状況と現代社会の問題について:講義と質疑応答 【フィールド実習③:3時間 14:00-17:00】森林散策と調査</p> <p>8/31(土) 【第6講義:3時間9:00-12:00】現代における共生のあり方について 【フィールド実習④:4時間 13:00-17:00】国田地域RMOの視察</p> <p>9/1(日) 【第7講義:4時間8:00-12:00】地域と教育:地元の高校生との交流を含めて 【ゼミ:4時間 13:00-17:00】まとめと発表に向けてのゼミ</p> <p>9/2(月) 【全体発表会:6時間9:00-12:00, 13:00-16:00】 各自からの発表と質疑応答, 講評 【閉会式】 18:00 大池いこいの森ビジターセンター解散</p>
<p>予習・復習の内容と分量 Pre-class Study Load [preparation &amp; review]</p>	<p>1. 事前の配布物の予習(20時間程度) 2. 毎日の講義の復習(2時間×6=12時間) 3. レポート作成(10時間)</p>

成績評価方法 Method of Grade Evaluation	5段階評価 Letter grades( A+, A, B, C/ F)	
	以下の通り評価します。	
	1. 事前・事後授業:10% ①テーマに合わせて論文を読み、それぞれ論文の発表をする ②最終レポートのテーマの暫定的設定	
	2. 実習中の毎日の感想:40%	
	3. ゼミでの発表:10%	
	4. 最終発表と質疑:20%	
	5. 最終レポート:20% ①テーマ性 ②問題設定 ③研究の意義 ④内容 ⑤結論 ⑥形式 などを評価する。	
多文化協働学修の実践方法 Method of Implementing Multicultural Collaborative Learning	社会科学における実地を対象とした協働調査をする過程において、自ずと他学生の他者性との協働学修をすることになる。したがって、他学生との議論等を活性化し、また協働調査の時間を設ける。	
授業担当教員の実務経験 Instructor's professional experience/involvement (outside academia)	なし	
学生への要望事項 Requirements for Students	短期集中の研究期間と考え、現場の声のリアリティを聞きつつ、理論と実践の循環の中で、よりよい研究を目指してほしい。	
テキスト(授業を履修する上で、購入が必須となる書物)備考 Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.) Notes.		事前講義に際し、いくつかのテキストブックを配布します。
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.)		なし
参考文献備考 Further Reading Notes		なし
参考文献 (図書、視聴覚資料)ライブラリリザーブコーナーに設置 Further Reading (Books, audiovisual materials) (Availableat Reserved Corner in the APU Library)		なし
参考文献(雑誌、年鑑白書等) Further Reading (Journal articles, white papers, year books, etc.)		なし
備考 Misc. Notes	募集人数 Number of participants	15
	最少実施人数 Minimum number of participants	5
	派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch	—
	参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。	約35,000円 [上記に含むもの] ・宿泊費 ・委託費 ・謝礼  [上記に含まれないもの] ・食費 ・国内旅行保険費用(1,000円) ・集合解散場所までの交通費
担当教員研究室電話番号 Office Phone No.	4520	
担当教員E-mailアドレス E-mail Address	seike@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ E-Book & Course-related links	—	

## CAM Table for Field Study & Field Research Project (プロジェクト研究) for College of Asia Pacific Studies (APS)

		フィールド・スタディ Field Study	プロジェクト研究 Field Research Project
1	アジア太平洋地域の社会、政治、経済、文化やその独自性を包括的かつ深く理解することができる。 Gain the ability to comprehensively and deeply understand the diverse and unique societies, politics, economies, and cultures of the Asia Pacific region.		
2	低回生では社会科学、すなわち社会学、政治学、経済学の基礎的知識や理論、方法論を理解することができる。 Master the basic knowledge, theories, and methodologies of the social sciences, especially sociology, political science, and economics during the first and second years of study.		
3	社会学、政治学、経済学のそれぞれを基盤とする「文化・社会・メディア」「国際関係」「グローバル経済」の3つの学修分野のいずれかの専門的知識や理論、方法論を理解することができる。 Understand the specialized knowledge, theories, and methodologies in one of the three areas of specialized studies: "Culture, Society, and Media," "International Relations," and "Global Economy."	CSM	○
		GE	○
		IR	○
4	アジア太平洋地域のリアリティに臨み、問題解決能力、実践力を獲得する。 Acquire problem-solving and practical skills by facing the reality of the Asia Pacific region.	○	○
5	さまざまなテーマ(サブ・ディシプリン)を扱うことができる少人数クラス(セミナー)において専門的な視点から4年間の学修および研究成果を卒業論文、卒業レポートに結実することができる。 Become able to study a topic (subdiscipline) from a specialized perspective in a small group seminar and write a graduation thesis or report that reflects the results of the student's four years of study.		
6	アジア太平洋地域の持続的発展と共生を目指し、4年間のキャンパス内外での多文化環境を含む多様な経験により、アジア太平洋地域のリーダーとなるべく共感能力、コミュニケーション能力、インテグリティ(高潔さ・ぶれない芯の強さ)を獲得する。 Gain empathy, communication skills, and personal integrity needed for leadership in the Asia Pacific region through 4 years of experiences in a multicultural environment both on and off campus with the goal of contributing to sustainable development and coexistence in the Asia Pacific region.	○	○

▲ Top of page